

平成 26 年度 錦田小学校区 第 2 回きずなづくりトークまとめ ～仮称：地域コミュニティ連絡会～

11月4日(火)に開催された「錦田小学校区第2回きずなづくりトーク～仮称：地域コミュニティ連絡会」にご出席いただきまして、誠にありがとうございました。まとめができましたので、送付いたします。
(市のホームページにも掲載)

問合せ 地域安全課 きずなづくり推進室 (電話 9 8 3 - 2 7 0 8)



ご参加ありがとうございました。

【当日参加団体一覧】

団体名		
小山中島自治会	体育振興会	錦田中学校
押切町内会	民生委員・児童委員	錦田中学校 PTA
東富士見自治会	錦田保育園	錦田地区地域包括支援センター
緑ヶ丘自治会	消防団第6分団	小山子供会
小山台自治会	錦田幼稚園	小山中島子供会
環境美化推進員会	私立桜ヶ丘幼稚園	
スポーツ推進委員	錦田小学校	

※当日参加者 21 名

会場アンケート：「テーマ別会議」「協議会設立」等について、参加者の意向を伺いました。



【会場アンケート結果】

テーマ別会議	
①登下校の見守り体制とその具体策を考えよう！	2人
②地域で子ども会をサポートしていく方法を考えよう！	6人
③地域で活動している団体同士をつなぐ場について考えよう！	10人
④その他	1人

※テーマ②と③の2グループに分かれ話し合いました。(別紙「テーマ別会議まとめ」参照)

協議会設立の意向	
①議会に向けた取組みを進めたい	9人
②連絡会を継続したい	7人
③その他	3人
協議会設立を検討する場への参加意向	
①参加したい	11人
②参加できない	3人
③その他	3人

— 団体より校区の皆さんに情報提供・協力をお願い —

- 桜ヶ丘幼稚園：毎年勤労感謝の日に、地元の警察署や消防署に園児が持ち寄った果物を届けている。
- 錦田小学校：公民館やシルバー人材、ジャポ インフォに苗の提供やお手伝い頂き、花壇の手入れを実施。
- 錦田中学校：今年度から「学校便り」を出している。中学校の情報を地域の方に知ってほしい。
- 一里塚を守る会：偶数月の第3日曜日に中学生・日大生等と一緒に松並木清掃を実施。誰でも参加可。
- 小山中島自治会：桜ヶ丘から通じる坂を走る車の台数調査を実施。皆さんと協力し安全策を進めたい。

テーマ②「地域で子ども会をサポートしていく方法を考えよう！（子ども会が消滅の危機）」

（テーマ②班：参加人数 6 人）

●錦田地区の子ども会の現状とそのサポート方法や廃品回収の問題点、遊び場の周知などについて皆で話し合いました。

★子ども会廃品回収に地域の協力を！

子ども会の廃品回収ができない

- ・廃品回収を回覧で周知すると、業者が来て持って行ってしまふ
 - ・役員が業者に怒号を浴びせられた
 - ・警察沙汰になったこともある
 - ・法的には処罰されない（現行犯のみ取締り）
- ・廃品回収は子ども会の**資金源**であり、地域の方との**交流の場**でもある
- ・廃品回収業者を止めてほしい
⇒地域でまとまって対策できないか？

アクション ■地域で取締まる

- ・廃品回収は子ども会が主体としてやるが、「業者を制止する」など、地域の方の協力があるとありがたい

★親子が安心して遊べる場（公園）の周知

子どもの遊び場所はどこ？

- ・子どもの遊ぶ場所は少ない
- ・どこで遊んでいるのか？

アクション ■遊び場紹介のパンフレットを作ろう！

- ・小学生は大きくなると遊ぶ範囲が広がる
⇒保護者や子ども会・小学校などへ、**錦田地区にある公園を紹介しては？**
- ・錦田地区の公園パンフレットがあるとよい
- ・行政は公園管理＆公園紹介をしてほしい

子ども会は町内の子どものコミュニケーションの場であり
地域防災でも必要な組織。町内でサポートしていく方法は？

小山島子ども会の現状

- ・4年前役員が決まらず休止。翌年子どもの所在が全く分からず、**災害時の対策の必要から復活**
- ・みんな会長をやりたいがらない（やれる人が何度もやることになってしまう）
- ・「親と一緒にいけないから子ども子ども会イベントに参加できない」と言う母親が多い
- ・企画しても活動がままならない
- ・母親の協力がないと子ども会も成立しない

子ども会に入っている**母親の協力が得られない！**

今のお母さん達の現状

- ・核家族や共働きの増加⇒役員が負担
- ・子ども会役員は「損」という考え
- ・自分さえ良ければそれで良いという考え
- ・地域主催なら協力する（町内が主体なら良い）
- ・自主的に動く母親はほとんどいない

「母親が出なくても、子どもだけ出せばいい」というシステムがない。今の状態では子ども会の人数は少なくなるばかり・・・

アクション ■PTAに子ども会活動周知に協力してもらおう

- ・できれば小・中学校 PTA 役員から「子ども会活動に子どもだけでも参加できる」と、親に話してほしい（押切町内会では親がいなくても参加）

地域の子ども会の現状

- ・各地区の子ども会会員が少なくなり、イベントに子ども会を招待しても参加が少ない
- ・子ども会より**少年団や習い事優先**
- ・子ども会主体でしゃぎり実施
⇒今年は4年生の参加者0人（押切町内会）
- ・子どもが高学年になると、子ども会役員をやりにたくなくて参加しなくなる

アクション ■子ども会会員の募集方法を工夫（押切町内会）

- ・今今回覧だけで募集⇒個別に訪問し勧誘する
- ・写真などを交えて周知する

アクション ■地域で親を育てる

- ・地域・町内が子ども会と一緒に活動することで、まず親を育てていく

アクション ■将来につながる子ども会サポート

- ・地域の青年団や老人会に、活動時子どもを見てもらうことなどを頼めるシステム作り
- ・子ども会・町内会の横のつながり、交流を増やす

親を育て、親を変えていくのは地域。
地域で議論を深め、子ども会を支えるシステムを構築しよう！



テーマ③「地域で活動している団体同士をつなぐ場について考えよう！」

「有事の際」と「日常」のネットワークは区別する!!

(テーマ③班：参加人数 15人)

【地域の現状】

・日中は550人の幼児、600人弱の小学生、約500人の中学生がいる地域。

- 1 地域コミュニティ連絡会
 - 2 学校安全会
 - 3 錦田小地域支援本部
 - 4 スクールガード
- ⇒組織設立の役員やボランティアのなり手がいない
- 5 豊かな心の育成会議

共有

これら団体がどう共存できるか？

・昔からの地区であり、心ある人もたくさんいる地区であるけれど…。地域の総意とは？(全員が集まっている訳ではない)

★ネットワーク構築が大切!

【有事の際のネットワーク】

- ・先日の発砲事件。個人的つながりによる連絡が早かった。(地域の横の情報共有)
 - ・公立と私立幼稚園で、同じ情報が届いてなかった。
 - ・メールはすぐ見られないので駄目。電話連絡が良い(地域内の連絡はアナログ)
 - ・情報源は一つであるべき。正しい情報の発信。
- ⇒**緊急ネットワークの情報システムの構築が必要。有事の時は危機管理課、警察を中心に！情報の一元化。**

【日常的なネットワーク】

- ・小学校校長先生が小学校区全域を回って、幼稚園にも声をかけてくれる。(歩く情報源)
- ⇒**きめ細かく声かけ・巡回が行えれば、日常的ネットワークになる。**
- ・私立・公立関係なく、何かあった時に連絡ができる顔のつながりが必要。
 - ・小中学校では台風の際など電話で連絡を取り合っている。保育園・幼稚園・地域にも広げていければ。
- ⇒**学校だけでなく、自治会や地域の団体とコミュニケーションを持てる場を作る。** 

◆「つなぐ場」って何？(どんなイメージか)

★知り合う場・助け合える場

- ・お互いの活動(機能)を知り、助け合えることはないか考える。
- ・団体の活動内容を知ってもらう(発表する)。良いことは取り入れる。
- ・お互いの共通した目標はないか(地域目標)？

★拡大の場

・PTAが中心になって広がっていったが…
交流が限られている。広げるための場があれば。

★各団体の情報共有・情報交換の場

お互いの活動を
知りあう場
⇒協力関係へ発展できる

◆「つなぐ場」に期待できること！(期待したいこと)

【具体的な活動】

- スポーツ振興 
- 地域で防犯訓練
- 子どもたちと高齢者が接する場／高齢者を元気にする場(若い人から)
- 学校、PTAは地域から受けるばかりなので、生徒と一緒に地域の為に活動していく(方針)。地域とWin-winの関係を構築したい。
- 自治会連合会と各団体との連携
- 市民の交流(1自治会、2町内、3友人、4ボランティア)
- 介護予防活動を広げたい／認知症になっても安心して生活できる地域づくり。
- 既存団体の統合と発展
集まる顔ぶれはどの会議に行ってもほぼ同じで、新しい組織を作るのは負担。
⇒負担軽減のために統合し「皆さんに参加してもらう」。そして「実のある会として解決の場」に発展させたい。
- 持続

■どこから始めるか？始めの一步!

・学校、高齢者、いろんな団体と話したい。代表者が集まってテーマに沿って細分化して話し合いができればいい。

⇒**まずは集まり、お互いを知りあうことから始めよう!!** 

※課題：小学校、中学校、連合自治会、避難所など全部エリアが違う。くくりが違うので話し合う内容によって参加者が異なる